

帰国子女・バイリンガル教育（英語補習校）プログラム

— 第6期秋季講座（6・7オクラス）の内容紹介 —

ABCD 学院 学院長 千葉紘一

日本で最初の帰国子女のための英語補習校であるABCD学院での教育について報告します。今回は、実際の帰国子女プログラムの低学年の秋季講座を、具体的に紹介させていただきます。

1. プログラムの目的

6,7才の帰国子女の“英語力の維持向上”と“考える力の育成”を目的に、実際にアメリカで行われているイメージ教育を取り入れ実施するものとします。

2. 講座の実施期間

2006年10月21日～12月9日の3ヶ月8回（16レッスン）を実施しました。毎回のスケジュールは表-1に示します。

3. はじめに

(1) 6,7オクラスの開講に当たった経緯

前回ご紹介した9才以上の帰国子女を対象とした帰国子女・バイリンガルプログラムがスタートして、丸5年と7ヶ月が経ちましたが、最近、帰国子女も若年化しつつあり、小学1年生からのお問い合わせが多くなりました。しかしながら、本学院では、6,7才位の帰国子女はこれまで、学校で教科内容が進んでいない状況では、イメージ教育は無理なのでお断りしてきました。即ち、この年齢の帰国子女の英語力については、話す英語はともかく総合的な英語力は未熟であります。まして教科は、例えばサイエンスを取り上げると言っても学校で習っていないので教科を取り上げられない、従って、イメージ教育を行えないうらみがありました。

とはいえ、この年齢の子供さんは永久記憶が出来ない年令である為、(言語学的調査では9才以上で永久記憶ができてくるといわれています。)覚えるのも早いけれども、忘れるのも早いと言った問題があり、日本に帰国後半年から1年間何もしないで放っておくと、折角バイリンガルになりかけたものが、完全に日本語だけの生徒となってしまいます。現実にはそのようなお子さんを見てきました。

バイリンガルにするには、この年齢の子供にあってこの時期は極めて重要な時期と言えます。そのような彼等に手を差し伸べねばと言う社会的責任を感じると同時に、最近このような年令のお子様の入校のご希望やお問い合わせ等でニーズが多いことを知りました。そこで、研究を重ね、第1段階として、昨年春には、イメージ教育への入門講座として、英語教育中心に本講座を設けることといたしました。しかし、結果として、6,7才の少数クラスと言っても各生徒の英語力には大きなレベル差があり、同じクラスでは無理があることが判明しました。そこで第2段階として、再度検討し、会話力がある程度以上の生徒向けに物語やドラマを中心としたイメージ教育を行なうこととしました。幸い優秀な生徒さんに恵まれ開始することができました。また、ドラマに適任の講師を迎えられ、以下に述べるようにゴールに到達できました。



Rちゃんのプレゼンテーション

(2) ゴール（最終目標）

従って、本講座の最終目標は「自作の物語を紙芝居のように絵で表現し、内容をプレゼンテーションを行うことが出来ること」としました。

そして、本秋季講座では、学期の途中から開始したため回数は8回で短期間ではありましたが最終目標を達成することができました。

6,7オクラスは、クラスの目標として下記としています。ただし、状況を見ながら実施している段階です。

- ① 英語力強化のため、ドラマや物語を読んだりして、ボキャブラリー強化、会話、リーディング力の強化を図ります。また、エッセイ、日記等のライティングを行います。
- ② 比較的自由に自己表現ができるように、また最後には自分で物語を創作し、紙芝居風に漫画を描いてプレゼンテーションを行い、また自分の考えを効果的に表現できるようにします。

4. 実施状況のまとめ

この授業がどの様に実施されたか、そのポイントをチェックリスト風に以下に示し、結果の詳細を後に記させていただきます。

* カリキュラムの特徴

- 1) 中身のある教材を使用して、単なる英会話でなく、ボキャブラリー強化はもとより、物語を中心に内容のある授業を行なうこととしています。自分の考えや意見を述べる機会を増やし、日本の学校では学べない自己表現力を鍛えます。
- 2) 帰国子女の多くが苦手な文法なども、文章を書かせつつ、覚えていただきます。

- 3) 単なる英会話でなく、リーディングや関連の会話授業もしっかりカバーします。
- 4) 自分の好きなテーマを選び、物語を創作しプレゼンテーションを行うこととします。

以下に、各項目について実施した結果の評価を記します。

1) 自己表現力を鍛える。

授業毎に宿題の日記をレビューし、読ませ、文章を見直させ、時には生徒同士に質問させ、ディスカッションを行ない、生徒自身の意見を発表し合いました。さらに毎日のテーマに従って複数の生徒で、1文づつ作りこれを繋げて物語を完成させたり、また、ある状況を指定してロールプレイをすることで表現力や想像力を高めました。

2) 文法やライティング授業を行なう。

毎週日記の宿題を出し、次週に先生が英文法をチェックしました。また今回は、プレゼンの原稿作りの段階で、できた原稿をレビューしてもらい、同時にプレゼン方法を指導しました。帰国子女は比較的話すことには慣れているものの文法的ミスが多くあるのも事実です。これには英語を書くことで、誤りを見つけ、直すことが重要となります。辛抱強くこの繰り返しが必要となります。

3) リーディングおよび関連会話授業を行なう。

上記(2)の教材や吹米で有名なアニメの本や、おとぎ話を使用し、リーディングの授業を行いました。新出単語、難易度の高い単語に関してはその都度復習をしながら進めました。同時に読解力を付ける為の問題にもチャレンジしました。

4) プレゼンテーションを行う

期末には創作の物語のプレゼンテーションを行いました。共通テーマ：物語の創作なので特になしとします。

- * Kさん : スヌーピーと幽霊
- * Rさん : ケイティ宇宙へ行く

以上のように、この最終回の創作物語のテーマ選びは、自由にしています。これまで自宅や学校でやっていることなどを取り上げ、日記にまとめたり、創作物語の発表訓練をして大勢の前でも発表することができました。

プレゼンテーション授業について、生徒にとってこのプロセスが重要です。発表は5分以下で終わってしまいますが、話すことをまとめ、分かり易く表現できるかがポイントとなります。生徒は小さいので、なかなかこれに達するのは時間がかかると思いますが、繰り返しやるのが重要であり、この繰り返しが生徒の頭に残ること、また、繰り返すことで、話すことに慣れ、自信を持って話が出来るようになりますし、結果的にはこのプレゼンの経験が自信に繋がることと思います。

以上の通り、目標を大きく持ち実施してきました。主な項目と内容を十分カバーしていると自負しております。また、このような難しい内容ながら、生徒が楽しんで授業を受けられることが重要と考えております。幸いにも、優秀な生徒に参加頂いており、生徒の表情を見ていただければおわかりのように、十分楽しくまた、熱心に進めさせていただいておりました。

5. おわりに

授業の内容および進め方は以上ですが、本授業内容をご両親にも知って頂くため、中間および最後のプレゼンテーション時はご両親の出席下に行なっております。また授業には毎回アシスタントが教室に入り、外国人講師を助けると同時に、授業内容を記録し、学期の終わりに報告書として、要所を撮影したビデオと共にお送りしています。また、この報告書にはアンケートを添付し、生徒およびご両親の回答をお願いし、授業内容のさらなる改善を図っています。

以上

表-1 帰国子女向、バイリンガル教育（補習校）プログラム・日程表
LESSON SCHEDULE OF US EDUCATION FOR
Autumn Term in '06 Morning Class (11:00-13:00)
(6-7 year students class)

DATE	CURRICULUM	OUTLINE CONTENTS	REMARKS
1 Oct 21	ORIENTATION	EXPLANATION OF CONTENTS OF THIS PROGRAM IN THIS SEMESTER	0.5H
	ENGLISH LEARNING	Mini-discussion,debate/ Vocabulary works / and focusing students' weak area	0.5H
	DRAMA	Discuss ,describe animals/make, create a story/ Reading/ Vocabulary works	0.5H H.W.: Weekly Diary
2 Oct 28	ENGLISH LEARNING	Mini-discussion,debate/ Vocabulary works / and focusing students' weak area	1H
	SCIENCE	Biology, Animals	1H H.W.:Weekly Diary
3 Nov. 4	ENGLISH LEARNING	Mini-discussion,debate/ Vocabulary works / and focusing students' weak area	1H
	DRAMA	Discuss ,describe fairy stories/Make, act stories/ Reading/Vocabulary works	1H H.W.:Weekly Diary
4 Nov. 11	ENGLISH LEARNING	Mini-discussion,debate/ Vocabulary works / and focusing students' weak area	1H
	DRAMA	Discuss, describe food/Design restaurant , role play/Reading/Vocabulary works	1H H.W.:Weekly Diary
5 Nov. 18	ENGLISH LEARNING	Mini-discussion,debate/ Vocabulary works / and focusing students' weak area	1H
	DRAMA	Discuss Disney, retell, talk about stories/Create, play, act plot, scene/ Reading/ Vocabulary works	1H H.W.:Weekly Diary
6 Nov. 25	ENGLISH LEARNING	Working together for preparation of project work.	1H
	DRAMA	Discuss, make cartoon/Create, act plot /Game/ Reading/ Vocabulary works	1H H.W.:Weekly Diary
7 Dec. 2	PROJECT WORK (Preparation)	Give a presentation in which students are interested. Q&A after the presentation	1H
	DRAMA	Discuss treasure/Make maps/ Create, act story Reading/ Vocabulary works	1H H.W.:Weekly Diary
8 Dec. 9	PROJECT WORK (Preparation)	To continue the above	1H
	PROJECT WORK	Tell a story with cartoon which students made. Q&A after the presentation	1H

ABCD 学院

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-12
TEL:03-5365-1341 FAX:03-5365-1340
<http://www.abcd.co.jp/>



今回は、小学校低学年向けの帰国子女プログラムの紹介です。低学年で帰国した場合、海外で得た英語力を保持するのがやっとなという英語プログラムが一般的です。しかし、ここで紹介したプログラムは、保持を目指すのではなく、低学年の児童の興味関心をそそる学習内容を選択して、英語での創作、そしてその作品のプレゼンテーションまで組み込んでいます。ABCD学院のカリキュラムの特徴です。「低学年の子どもは、すぐ忘れるから」とあきらめるのではなく、子ども一人ひとりに応じたカリキュラムで指導すれば、言語活動を通して、さまざまなスキルを身につけられと言うことが、報告されています。千葉さん、詳細な報告ありがとうございました。